

平成20年 2月

# 穆 浩生 学位論文審査要旨

主 査 岸 本 拓 治  
副主査 福 本 宗 嗣  
同 黒 沢 洋 一

## 主論文

Health-related quality of life and recognition of desertification among inhabitants of the Loess Plateau region of China: findings for city and village communities

(中国黄土高原における地域住民の健康関連QOLと砂漠化認識：市部と農村部の調査結果)

(著者：穆浩生、黒沢洋一、小谷和彦、劉国彬、劉普林、恒川篤史、西野俊一郎、伊藤健彦)

平成20年 Journal of Environmental Health 70巻 38頁～43頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、乾燥地である黄土高原の都市と農村の住民の健康関連QOL、主観的生活満足度を評価し、社会経済的因子との関連について調査したものである。健康関連QOLの評価にはSF-36を用いた。健康関連QOLを評価した結果、農村女性の活力と心の健康の低下が示唆された。また、農村地域の健康関連QOLには、経済収入の要因が強く影響していることが認められた。都市住民に比較して、農村住民の砂漠化認識が低いことが明らかとなり、農村住民に対する環境教育対策の必要性が示唆された。これまで、ほとんど調査されることのない乾燥地の住民の健康関連QOLを評価し、それに関連する要因を示し、明らかに乾燥地の保健医学分野の学術水準を高めたものと認める。